

分 かり と 快 感 !

Z会ナビ

算数

理科

社会

お 題

ゾウムシの長い「鼻」はなんのため？



ゾウの鼻のように長い部分をもつ昆虫を見つけました。この長い「鼻」、いったい何のためにあるのでしょうか。



上の写真は、ゾウムシとよばれる昆虫の一種です。ゾウムシの間には非常に種類が多く、知られているだけでも世界中で6万種、知られていないものをふくめると20万種ほどいるだろうともいわれています。日本にも多くのゾウムシがくらしていますので、みなさんの近くでもきっと見つかるはず。写真のゾウムシは、その6万種のうちの1種でイチゴハナゾウムシといいます。体長3センチほどの小さなゾウムシで、庭に植えているバラのつぼみに卵を産みつけているところでした。

気になるのはやはり長い「鼻」ですね。ゾウの鼻は草を口へ運んで食べたり、水を口へ運んで飲んだりするときに使われますが、ゾウムシの「鼻」はなんのためにあるのでしょうか。

「鼻」の先には

からだの一部が長くなっている昆虫は、ほかにもいます。例えば、カブトムシの長い角は、餌場を争ったり、メスをうばい合ったりするときに使われます。ウマノオバチという体長2センチほどのハチは、卵を産むための管がなんと15センチもあります。この長い管は、木のおく深くにいるカミキリムシの幼虫に卵を産みつけるときに使われます。長いものにはそれぞれ理由があるのです。

さて、ゾウムシの長い「鼻」が何に使われるのか、理由を探るために拡大して見てみましょう。



こちらは、スグリゾウムシというゾウムシです。イチゴハナゾウムシよりも「鼻」は短いですが、



イラスト・瑞木匠

不思議な形に意味あり

その「鼻」の先が開いていることがわかります。実は、この開いている部分は大アゴで、この長い部分は「鼻」ではなく、口(口吻)といふのです。口吻ということは、もちろん食べ物を食べる時に使います。細長い口吻を使って、ほかの昆虫では届かないような場所にある食べ物を食べることができます。チョウのストローのような長い口吻(口吻)と似た役割ですね。

また、この口吻は穴をあけるためにも使われます。問題のイチゴハナゾウムシの写真は、おしりをつぼみにつけて卵を産んでいるところですが、この少し前には、長い口吻を使って、つぼみに穴をあけていました。穴をあけて、その中に卵を産むことで、ほかの生き物に卵を食べられにくくしているのです。しかも、卵を産んだあとには、その穴をうめておくという、ていねいな仕事ぶりです。ゾウムシの長い口吻は、食べ物を食べるためだけでなく、卵を産むためにも役立っていたのです。ちなみに、イチゴハナゾウムシを漢字で書くと、「萼花象虫」です。「鼻」ではなく、イチゴなどの「花」につくゾウムシという意味で名付けられました。

ちょうどよい形に進化する

ゾウムシの長い口吻にも、立派な役割があることがわかりました。長い口吻が役に立つのであれば、長ければ長いほどよいのではないかと、思う方もいるかもしれませんが、そう簡単なものでもないのです。長すぎると、つかえて動きにくくなったり、折れやすくなったりするかもし

れません。長すぎても短すぎてもダメ、それぞれの種でちょうどよい長さに進化してきた結果、このような不思議な形の昆虫が生まれたのです。

ほかに、不思議な形の昆虫といえば、わたしはツノゼミという昆虫を思い浮かべます。ツノゼミの仲間には、不思議な形をしているものも多くいて、この不思議な形が何の役に立っているのか、はっきりとはわかっていない部分も多くあります。しかし、そのよくわからない不思議な形も、ツノゼミにとってちょうどよい形に進化してきた結果なのです。ツノゼミがいったいどんな形をしているのか、気になった方は調べてみましょう。きっと生き物の不思議さにおどろくことと思います。

(Z会・鳥越賢)

！ 今回の 教訓

地球には、昆虫のほかにさまざまな形をした生き物がいます。そして多くの場合、その形にはちゃんとした理由があります。そうした生き物の形から、人が学ぶことも多いのです。



鳥越賢さん 2010年Z会入社。小学生向けの理科の教材編集を担当。生き物が大好きで、妻と2人の娘とたくさん生き物に囲まれて暮らす。山口生まれ広島育ち。